

令和4年度 東久留米市立中央中学校 学校経営計画

校長 齋藤 実

《学校教育目標》

人権尊重の精神を基調として、豊かな人間性と社会性を培い、自主・自律・自治の精神に満ち、且つ、培った力を存分に表現し、喜びをもって自他共に生きることができる生徒の育成を図る。そのために次の目標を定める。

共に生きる喜びをつかもう

・進んで学ぶ ・人を思いやる ・体力をつける

行動目標： 自主 自律 自治 表現

《特別支援学級の教育目標》

社会生活の自立を目指し、豊かな心をはぐくみ、自ら考え行動できる生徒を育成するために、次の目標を定める。

- ・進んで学び、創造する力を付ける
- ・お互いを認め、協力し合える力を付ける
- ・健康や安全に気を付け、規律ある生活ができる力を付ける

1 目指す学校像、目指す生徒像、教師像

日常の教育活動が効果をあげるためには、生徒、保護者、地域に信頼されることが重要である。私たちの目指す社会は「誰も置き去りにしない」共生社会である。また予測困難な時代に、しなやかに生きる未来の創り手を育て、世に送り出すため、以下の学校像、生徒像、教師像を目指し、学校経営を推進します。

○ 目指す学校像

- (1) 生徒、保護者の人権・安心・安全が守られる学校
- (2) 生徒が日々の教育活動で夢や希望をもって生活できる学校
- (3) 生徒一人一人に生きる力をはぐくむ学校

○ 目指す生徒像

- (1) 笑顔ですすんで仲間づくりをする生徒
- (2) 困ったときはお互い様、相談できる生徒
- (3) 仲間とともに粘り強く努力し、高め合う生徒
- (4) 学んだことを仲間に表現できる生徒

○ 目指す教師像

- (1) 生徒の良さを認め、自ら声をかけ、生徒一人一人を大切にする教師
- (2) 人権尊重の理念を理解し人権教育を推進する教師
- (3) チーム中央中で情報を共有し課題解決できる教師

2 中期的目標と方策（令和3年度～）

新型コロナウイルス感染拡大により令和2年度は人類にとって大きな転換点となった。東京オリンピック・パラリンピックの開催は本年に延期となり、生徒は未だ不安な中で日々の生活を送っている。その中で、保護者・生徒に安心を与える教育活動を推進していく。また、令和3年度新学習指導要領の本格実施に際し、生徒に身に付けさせる3つの力を意識し、持続可能な社会、共生社会の作り手に必要な資質能力を高める教育活動をすすめる。さらに教科を横断するカリキュラムマネジメントに取り組む。学力向上の課題には、生徒に学習習慣を身に付けさせながら、評価・評定の理解をすすめて生徒が見通しをもって主体的に学ぶ意欲を高める。また、ICT機器、タブレット端末の活用工夫による授業改善を行う。

3 今年度の取組目標と方策

○健全育成スローガン

～共に生きる喜びをつかむために～

「奇跡の出会いに 心をつなぐ 中央中学校」

○研究テーマ

「情報活用能力の育成」東久留米市教育委員会研究奨励校（令和4年度・5年度）

（1）学習指導

- ① 授業スタイルの定着（本時のねらいを示し、振り返りを行う）。
- ② 単元ごとの評価計画（学びのプラン）を作成し、評価と指導の一体化を図る。
- ③ 評価・評定の方法を理解させ、見通しのある学習活動を行う。
- ④ 1時間毎、単元毎に振り返りを行い自己調整する力を付ける。
- ⑤ 授業規律の徹底・授業道具の準備・授業内のルールとマナーの定着。
- ⑥ 分かる授業、考える授業、学び合う授業、探求する授業へ改善。
- ⑦ 知識・技能、思考力・判断力・表現力等を測る定期テストの工夫・改善。
- ⑧ 朝の読書や授業内で短時間の蓄積学習（国・社・数・理・英）の実施。
- ⑨ 家庭学習の指導の充実を図ると共に、予習、復習の習慣化を図る。
1年60分以上、2年90分以上、3年120分以上できる学習指導
- ⑩ タブレット端末を活用した授業研究の推進。
- ⑪ 定期考査前学習、長期休業中の補充学習教室などの学習支援（補充学習）の計画と実施。
- ⑫ 英検、数検、漢検、校内テスト・コンクールなどを推進し、学ぶ意欲の向上を図る。

（2）生活指導・進路指導

①心の教育・規範意識・自己教育力の醸成

- (ア)自らよく考え、判断し、自己決定する力を身に付けさせる。
- (イ)中央中生活三カ条（礼節・服装・時間）を徹底する指導を行う。特に礼節指導（道徳心や挨拶、返事、言葉遣いなどTPOに応じた立ち居振舞い）を推進する。
- (ウ)問題行動の指導に際しては、家庭と連携し、事実に基づいて解決策を共に考え対応する。
- (エ)通常の学級と特別支援学級の生徒との交流及び共同学習の機会を通して、共生の意識を高める。

②進路指導の充実

- (ア)キャリア・パスポートを作成し、学期ごと、体験的な学習活動後にポートフォリオ化してなりたてい自分をデザインさせる。
- (イ)生徒の良いところを積極的に発見し伝えていく。（自尊感情を高めるために）
- (ウ)教科内容と社会のつながりを意識した授業をデザインする。
- (エ)職業調べ、職場体験学習、討論やレポート作成等を系統的に計画する。
- (オ)生徒の困り感を読み取り、具体的な方法を共に考える。

(3) 特別活動

- ① 学校行事、生徒会活動、学年・学級経営を通して、生徒の居場所づくり、きずなづくりを行う。
- ② 生徒会活動を充実させ、自主性、自律心、自治力を育てる。
- ③ 学校行事や集団活動を通して、生徒相互のよりよい人間関係や生徒と教員の信頼関係を築く。
- ④ 部活動を通してスポーツや文化活動に親しむと共に、異学年との交流による好ましい人間関係、責任感、連帯感、思いやりなどの形成を行う。

(4) 道徳教育の充実

- ① 重点項目を、『主として人との関わりに関すること「思いやり・感謝」』とする。
- ② 「考える道徳」、「議論する道徳」として実施した「特別の教科 道徳」を更に発展させるために道徳推進教師を中心として組織的に取り組む。

(5) 総合的な学習の時間

全体テーマを「共に生きるー地球・命・未来」として探求的な学びを実現する。

(6) 特色ある教育活動

①特別支援学級の教育の充実、特別支援教育の充実

- (ア)通常学級と特別支援学級との交流教育の推進。
- (イ)スキー教室、修学旅行への参加による交流の推進。
- (ウ)特別支援学級独自の校外学習と宿泊学習の充実。
- (エ)家庭（生徒・保護者）と巡回指導教員、特別支援教室専門員及び担任、学年職員と連携し、特別支援教室の指導が、通常学級内でも生かされる環境作りを行う。
- (オ)文化発表会や作品展示会を交流活動として表現、発表の場とする。
- (カ)ユニバーサルデザインの観点から、全ての生徒にとって居場所となる学級作りを行う。

②外部講師による教育活動の推進

「情報モラル教室」「留学生が先生」「健康講話」「社労士による出前授業」
「新聞記者による講演」「職業講話」「出前職業体験」

③東京2020レガシー

生徒会主催、青少協と連携したボランティア活動、社会貢献活動の継続、推進

4 いじめ防止・不登校生徒の対応について

(1) いじめの防止及び対策

- ① 人に対して親切な行為を心がける生徒の育成を行う。
- ② 生徒会活動としていじめ防止を学校全体として取り組む。
- ③ 情報モラル教育、SNS東京ルールに基づく指導の推進。
- ④ 年3回の道徳授業で「いじめ」に関する授業の実施。
- ⑤ スクールカウンセラーによる1年生全員面接の実施。
- ⑥ 事実の確認を対応記録にファイリングするとともに情報の確実な共有を図る。
- ⑦ 学期ごとのいじめ発見アンケートの実施。
- ⑧ 校内巡回、面談、教育相談等により早期発見、早期対応、早期解決を図る。

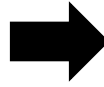
(2) 不登校未然防止及び対策について

- ① 欠席生徒の把握。職員室ホワイトボードへの記入（遅刻・早退生徒も含む）。
- ② 欠席者への家庭連絡の徹底。その日のうちに家庭へ連絡をする。
- ③ 欠席が連続、増加したら管理職、学年、生活指導部への確実な連絡、面談、家庭訪問の実施。
- ④ 不登校傾向の生徒へは組織的に取り組み、SC、学力パワーアップサポーター、SSW、民生児童委員、子ども家庭支援センターなどの内外機関との連携も図る。

⑤ 困り感のある生徒へ以下の関わりに取り組む

○教師の関わり

- 1 一人一人の可能性を信じ抜く
- 2 ありのままを受け入れる
- 3 何があっても励まし続ける
- 4 どこまでも支える
- 5 そして、心をつなぐ



○受容対応の意識

- 1 本人の好きなこと、得意なことを探る
- 2 安心していられる場所をつくる
- 3 活躍の場を与える
- 4 不安や緊張、怒りや嫌悪などの不快な感情を言葉で表現できるように促す

「令和3年度下里中学校研究発表講演より」

5 働き方改革によるライフワークバランス充実

- (1) 定期テスト1週間前の定時退勤デーの推進
- (2) 起案文書点検による会議時間の短縮

6 学校評価の充実

- (1) 学校公開、ホームページ、各種便りで情報発信を積極的に行う。
- (2) 7月に生徒による授業評価の実施
- (2) 12月に生徒、保護者に対する学校評価アンケートの実施
- (3) 1月に学校評議員による学校評価の実施